Asian Productivity Organization
"The APO in the News"

Name of publication: Nikkan Sangyo Shimbun (9 June 2016, Japan)
Page: 2

GPAC・馬田会長

アジア環境経済会議で基調講演

【バンコク・篠塚浩司】国際機関であるアジア生産性機構（APO）の組織「緑の生産性諮問委員会（GPAC）」の馬田一会長（JFEホールディングス相談役）が8日、第10回エコプロダクツ国際展に併催するアジア環境経済会議で基調講演を行った。馬田会長は持続可能社会の実現に向けた、JFEの取り組みを紹介した。

基調講演の要旨は次のとおり。

環境問題への対応がグローバルで進展している。この中、COP21においてパリ協定が採択された。京都議定書に代わる、2020年以降の温室効果ガス排出削減等の新たな国際的枠組み。世界の温室効果ガス排出を抑えるべく、先進国は最新の技術を駆使し、技術移転などを通じて、途上国の温暖化防止の取り組みを支援する。

EPIF2016が開催されたタイは近代化・工業化のバランスを保つ努力をしてきた先駆的な国。EPIFを通じて学ぶことが多くある。今回は産業活動のみならず、消費活動まで24時間社会の実現に向け、あらゆるステークホルダーの満足と協調のための貢献を続けている。これが結果的にJFEグループへの利益にもなると考えている。

講演する馬田会長

JFEの取り組み紹介

「3つのエコ」「ZeroE」など

エコ社会への具体的な取り組みとして、まず鉄の「3つのエコ」を説明する。最初は、鉄をつくるときのエコ、「エコプロセス」。JFEスチールでは90年から14年にかけて、鉄鋼製造における省エネと環境負荷低減を徹底的に行っている。次は鉄を使うときのエコ、「エコプロダクト」。JFEスチールで生産される薄板は缶や自動車用に利用され、軽くて高強度の薄板は燃費が良く、安全な自動車をつくるために欠かすことができない。軽くて強い鉄は1000MPaを超える吊橋等で使用。厚板は燃費に優れた大型貨物船となり、大量の荷物を環境に優しく運べる。3つめは「エコソリューション」。JFEスチールは世界最先端の省エネ技術や環境技術を広げて、世界規模で地球温暖化防止に貢献している。

現地顧客のニーズに合わせた生産工程を現地で造設・運営し、顧客の世界展開に合わせて現地の鉄鋼会社と技術提携、技術開発を行うために世界に広く展開。アジアを中心に自動車向け、建築・土木向けなどの鋼板の製造・加工拠点を設置する。タイでは自動車用鋼板めっき処理会社、冷延鋼板製造会社、電気亜鉛めっき処理会社、ブリキ製造会社を設立・運営し、エコ技術を含めた製造技術を指導している。

【JFEエンジニアリングの取り組み】

JFEエンジニアリングの最先端技術に「ZeroE」がある。ごみを燃やして作る電気でごみ収集車を動かし、化石燃料に頼ることなく収集する。ごみ収集に使うのは電池交換型の電気自動車で、走行時のCO2排出はゼロ。騒音もなく、静か。CO2排出削減と安心安全を両立する一石二鳥のシステムだ。

ごみ焼却発電技術はごみを燃やして発電、熱利用すればエネルギーに転換でき、化石燃料の使用を削減。最終廃棄物を大幅削減でき、人体への影響を軽減し、最終処分場の長寿命化も可能になる。

また、複合バイオマス発電「BI」事業は下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥、生ごみを一カ所にまとめてメタン発酵処理し、生成するバイオガスを燃料として発電する日本初のプロジェクト。別々の施設で処理する場合に比べて建設、維持管理・運営にかかるコストを低減でき、これまで回収していなかった廃棄物エネルギーの有効活用も図ることができる。このプラントでは、メタン発酵に伴って発生する廃液も脱化して燃料化し、完全エネルギー化を図っている。

このように、JFEグループは環境への負荷を軽減する技術の開発・普及に努めており、持続可能な社会の実現に貢献していく。

(日刊産業新聞　2016 年 6 月 9 日付　2 面)